

コゲラ

Dendrocopos kizuki

キツツキ科・留鳥

名前の由来

小さなキツツキの意。日本最小のキツツキ。「ケラ」はキツツキの古名「けらつつき」の略で、けら(虫)をつついて捕るのでついたといわれる。漢字名：小啄木鳥



コゲラ

特定種

該当なし

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）15cm。スズメくらいのおおきさで、キツツキの仲間では一番小さい。薄い茶色と白のまだら。

頭上から体の上面（背面）は黒褐色で、顔は褐色、背と翼には白く横に並んだ斑がある。胸の横から脇にかけて、褐色の短めの縦スジが何本もある。

オスの後頭両側に赤い小さな斑があるが、野外では普通は見えない。

声：「ギョーッギョーッ」と床がきしむように鳴く。また、「ギョーキッキキッキ」と甲高い声を出すこともある。早春には枯れ枝などをたたいて音を出すドラミングを行う。「トロロ」というような低い音を出す。短い太鼓たたきを数回連続させる。

飛び方やとまり方：飛ぶときには、羽ばたきと翼を閉じての滑空とを繰り返す、波のような飛行曲線を描く。木の幹に垂直にとまる。また、つるにぶら下がり気味にとまったり、細い横枝に普通の鳥のようにもとまる。

類似種と見分け方：コアカゲラ。

コアカゲラのオスは頭部が赤く、メスは額が白い。



コゲラ。顔は褐色、脇に褐色の縦斑がある



コアカゲラ(オス)。顔は白、脇に目立つ縦斑はなく、頭に大きな赤斑がある

生息環境・分布

低地や低山帯のいろいろな樹林。樹木の多い公園でも繁殖する。

分布：ユーラシア大陸中緯度地方の東部と、日本海を取り巻く地域だけに分布する。

日本では北海道から沖縄まで広い範囲で留鳥。

北海道では留鳥で平野部から山地まで森林に生息する。平野部の林には冬に降りてくる程度。北海道に生息するもの

はエゾコゲラと呼ばれる亜種。（亜種とは、同じ種が地理的に隔離されることによって独自の分化をとげ、形態的に変化が確認できるもの）

十勝では留鳥で、平野部から山地まで森林に生息する。平野部の林には少ない。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期												
						繁殖						

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(葎原・樹林)
鳥類
ワシタカ

食性・他生物との関わり

木、低木や藪、あるいは枯れ草の茎で昆虫の幼・成虫を捕る。アブラムシもよく食べるという。秋から冬にはハゼ、ヤマウルシ、ハリギリ、ミズキなどの果実も食べる。虫を捕る際は、樹木の幹から大枝、小枝にかけて、天辺に

向かってよじ登りながら採食する。樹皮表面や葉からつまみとったり、コケ類や地衣類の中をのぞいてつまんだり、小渋をつついてほじくったりしてとる。捕食者は猛禽類など。

繁殖生態

繁殖期は5～7月、一夫一妻で繁殖する。秋から冬につがい作りやなわばり決定のための行動を行う。(→興味深い話の項参照) 枯れ枝や枯れ木にオスメス共同で穴を掘り、巣を作る。巣は地上1.5～10mくらいの高さに作られ、穴の直径は3～4cm、深さは15～30cmくらいで、巣材はないという。5～7個産卵し、オスメス交代で卵を抱くが、夜はオスだけが抱卵するという。約12日後にヒナがかえり、約22日間オスメス共同で養う。



巣穴から顔をのぞかせるコゲラ

興味深い話

- 標識調査で、9年11ヶ月の生存が確認されている。
- 春には、木を叩くドラミングをおこなうが、その音はアカゲラなどに比べるとずっと小さく、そばにいないと聞こえない。
- 秋から冬にかけて行われるつがい作りやなわばり作りの時には、木の幹にとまって、翼を半開きにしてふるわせたりバタバタとあおったり「キキキキ」と鳴いて首を振ったりするディスプレイ（誇示のための行動や動作）を行い、飛んで回転したりもする。
- つがいのなわばりは直径300～500mだという。
- 小型のキツツキなので生木ではなく、枯れ木にくちばしで穴を掘って巣にする。巣の深さは15～30cmくらいである。
- ヒナは巣立つと巣穴から一気に飛び出し、幹に縦にとまって餌を探すが、数日間は親から餌をもらうのだという。時には7ヶ月も親元を離れないことがあるという。
- 冬には餌台に来て脂身を食べることもある。冬にはシジュウカラの仲間と混群とよばれる群れを作ることがある。
- 小さいので固い生木に穴を開けられず、枯れ木や枯れ枝

に巣を作る。生木に人工的に枯れ木の一部をくくりつけ、コゲラに巣を作らせた例があるという。■上信越地方より北ではニューナイスズメがコゲラの巣から卵をくわえ出し、巣を乗っ取ってしまうことがあるという。



木をよじ登るコゲラ

配慮事項

枯木や枯れ枝のある樹林が大事。

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000
「野鳥ブックス2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994増補版7刷)
「北海道の野鳥」藤巻裕蔵・小堀煌治、北海道新聞社 1997

「鳥類観測ステーション報告」(財)山階鳥類研究所、1996
「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993
「日本の野鳥図鑑1 野山の鳥」国松俊英、偕成社 1995
「十勝と釧路の野鳥」日本野鳥の会 十勝支部・釧路支部 1987
「鳥のおもしろ私生活」ピッキオ 編著、主婦と生活社 1997
「続野鳥の生活」羽田健三 監修、築地書館 1976

松岡茂 (1977) 同所性キツツキ類の生態的重複と差異. 北海道大学農学部博士論文.

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(鳥水辺)
類

(葎原樹林)
鳥類
ワシ・タカ